

的意義。岩波「生物科学」26 (4): 169—174。

- 5) 江原昭善 (1974): ゲラダヒヒについて。平凡社アニマ 19: 22—23。
- 6) 江原昭善 (1974): 人類—ホモサピエンスへの道。NHK ブックス。
- 7) 和田一雄 (1974): オットセイの起源に関する一試論 (I)。海洋科学 6 (11・12):
- 8) 和田一雄 (1975): オットセイの起源に関する一試論 (II) 海洋科学 7 (1・2):

論 文

- 1) Nozawa, H., T. Shotake and Y. Ohkura (1975): Blood protein polymorphisms and population structure of the Japanese macaque, *Macaca fuscata fuscata* in Isozymes IV. Genetics and Evolution, ed. C. L. Markert, Academic Press, pp. 225—241.
- 2) Shotake, T. and K. Nozawa (1974): Genetic polymorphisms in blood proteins in the troops of Japanese macaques, *Macaca fuscata*: I. Cytoplasmic malate dehydrogenase polymorphism in *Macaca fuscata* and other non-human primates. *Primates*, 15: 219—226.
- 3) Shotake, T. (1974): Genetic polymorphisms of blood proteins in the troops of Japanese macaques, *Macaca fuscata*: II. Erythrocyte lactate dehydrogenase polymorphism in *Macaca fuscata*. *Primates*, 15: 297—303.
- 4) Shotake, T. and Y. Ohkura (1975): Genetic polymorphisms of blood proteins in the troops of Japanese macaques, *Macaca fuscata*: III. Erythrocyte carbonic anhydrase polymorphism in *Macaca fuscata*. *Primates*, 16: 17—22.
- 5) 江原昭善 (1975): 愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡出土人骨について。愛知県教育委員会編。
- 6) 山平トモ・江原昭善 (1975): ヒトを含む霊長類手掌・足趾の触覚神経終末 (特に Meissner 小体および Vater-Pacini 小体) の分布密度の比較。岐阜大・医学部紀要 23(1)。
- 7) 和田一雄 (1974): 日本のラッコ・オットセイ 狐業の変遷と資源管理論の成立過程。北海道史研究 3: 15—28。

報 告 そ の 他

- 1) 西邨顯達 (1974): サルのコミュニケーション—生態のはなし—エレクトロニクス, pp. 1084—1088。

学 会 発 表

- 1) 血液蛋白変異による *Macaca* 属サルの種間比較。
野沢 謙・庄武孝義・大倉よし子
北島正子・田名部雄一
第19回プリマーテス研究会 (1975)
- 2) Genetic variations within and between troops of *Macaca fuscata fuscata*.
Nozawa, K., T. Shotake, Y. Ohkura,
M. Kitajima and Y. Tanabe
5th Cong. Inr. prim. Soc. (1974)
- 3) A fixed state of the PGM₂ allele in the population of *Macaca fuscata yakui*.
Shotake, T., Y. Ohkura and K. Nozawa.
5th Cong. Int. Prim. Soc. (1974)
- 4) リスザル (*Saimiri sciurea*) の血液蛋白質の遺伝的変異
庄武孝義・大倉よし子・野沢 謙
第19回プリマーテス研究会 (1975)
- 5) 頭部支持機構との関連からみた頭頸部キフォーゼ
江 原 昭 善
第28回日本人類学会 (1974)
- 6) 旧世界ザルの間顎骨にみられる形態変異
江 原 昭 善
第19回プリマーテス研究会 (1975)
- 7) 志賀A群の年間体重変化 (予報)
和田一雄・常田英士・油田よし子
第19回プリマーテス研究会 (1975)
- 8) The group characteristics of woolly monkeys (*Lagothrix lagothrica*) in the upper Amazonian basin.
Akisato Nishimura & Kosei Izawa
5th Cong. Int. prim. Soc. (1974)

生 活 研 究 部 門

杉山幸丸・小山直樹
田中二郎・大沢秀行

研 究 概 要

- 1) ニホンザル個体群生態学的研究
杉山幸丸・小山直樹・大沢秀行
1. 霊仙山生息ニホンザル地域個体群の動態。餌付けを放棄した2つの野生群の全個体標識識別を基礎に、餌付け期間中と対比させながら人口学的研究を進めてきた。
2. 嵐山生息ニホンザルの個体群動態。全個体に関する出産・死亡・離脱などの資料の収集と分析をおこな

い、個体群動態解明にとりくんできた。

3) 高崎山生息ニホンザルの個体群動態。ポピュレーション・センサスとサンプル標識追跡によって、個体群構造の人口学的解析を進めてきた(変異部門西邨顕達と共同)。

2) エチオピア高原におけるゲラダヒヒの社会生態学的研究

大沢秀行

昭和48年5月より10ヵ月間にわたって実地調査した成果を個体群生態学的観点からまとめた。整理は一段落したので、継続調査のため昭和50年7月再度現地へ向かった。

3) 類人猿、狩猟採集民・遊牧民の生態学的研究

田中二郎

ホミニゼーションの過程における生活様式と社会の復元を目的として、昭和49年7月より1年間、タンザニアでチンパンジー、ボツワナでブッシュマン、ザイールでピグミー、ケニアでレンディール、サンプル、ツルカナ諸族の生態を調査してきた。

報告その他

- 1) 杉山幸丸(訳)(1974): 人類の出現(A. コルトラント著)。思索社、東京。
- 2) 杉山幸丸(1975): 森林限界のサルーヒマラヤラングールの生態を探る。アニマ22: 32-41。
- 3) 鈴木孝夫・日高敏隆・杉山幸丸(1975): 言語の発生をめぐって—動物のことばと人間のことば。言語4: 578-610。

学会発表

- 1) 霊仙山生息ニホンザルの個体群動態
杉山幸丸・大沢秀行
第21回日本生態学会大会(1974)
- 2) 高崎山生息ニホンザルの生命表
増井憲一・杉山幸丸
西邨顕達・大沢秀行
第21回日本生態学会大会(1974)
- 3) ニホンザル崩山群の個体数変動
小山直樹・乗越皓司
真野哲三
第21回日本生態学会大会(1974)
- 4) Life History of Male Japanese Macaques at Ryozenyama.
Y. Sugiyama & H. Ohsawa
5th Cong. Int. prim. Soc. (1974)
- 5) Life Table of Japanese Monkeys at Takasakiyama (Preliminary Report).

K. Masui, Y. Sugiyama,

A. Nishimura & H. Ohsawa

5th Cong. Int. prim. Soc. (1974)

6) Population Dynamics of Japanese Monkeys at Arashiyama.

N. Koyama, K. Norikoshi & T. Mano

5th Cong. Int. prim. Soc. (1974)

7) Group Shifting and Social Organization among Japanese Monkeys.

K. Norikoshi & N. Koyama

5th Cong. Int. prim. Soc. (1974)

8) Social Structure of the Gelada Baboon—Studies of the Gelada Society (I).

H. Ohsawa & M. Kawai

5th Cong. Int. Prim. Soc. (1974)

9) 高崎山生息ニホンザルの標識追跡による個体群動態

杉山幸丸・西邨顕達

大沢秀行・増井憲一

第19回プリマテス研究会(1975)

10) ゲラダヒヒのハード構成の動態

大沢秀行

第19回プリマテス研究会(1975)

生理研究部門

大沢 済・大島 清

目片文夫・林 基治

研究概要

1) 体温調節反応の比較生理学的研究

大沢 済・目片文夫

原文江¹⁾

各種サル類の寒冷・暑熱下における体温調節反応を比較し、棲息環境および系統との関係を考究する。

2) ニホンザルの温度順応に関する研究

大沢 済・目片文夫

原文江¹⁾

体温調節反応、ノルアドレナリン反応性、脂質組成等の季節的变化を調べる。

3) ニホンザル野性群における寒冷適応の研究

大沢 済・原文江¹⁾

志賀高原地獄谷A群について捕獲総合調査を行った。

4) 妊娠、分娩、産褥時の卵管、子宮活動に関する電気生理学的研究

大島 清・竹中晃子²⁾

分娩を機転として、内生殖器中、特に子宮の自発筋電

1) 教務職員